

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区名	東淀川区
学校名	大阪市立大桐中学校
学校長名	南 義徳

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）

- (2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・大桐中学校では、第3学年 173名中168名で実施

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率をみると、

	全国比	大阪市比		全国比	大阪市比
【国語A】	-5.5	-2.4	【国語B】	-5.5	-1.1
【数学A】	-8.0	-5.8	【数学B】	-6.5	-4.1

また、無解答率をみると、

	全国比	大阪市比		全国比	大阪市比
【国語A】	+0.4	-0.1	【国語B】	-1.7	-3.0
【数学A】	-1.7	-2.6	【数学B】	-5.5	-7.7

であった。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

正答率では「話す・聞く能力」「書く能力」よりも「読む能力」の定着が低かった。「国語の勉強は好きですか」という質問において肯定的に回答している生徒は、全国比-9.8ポイント、大阪市比-8.7ポイントであったが、「最後まで解答を書こうと努力しましたか」という質問において肯定的に回答している生徒は、全国比+8.8ポイント、大阪市比+12.2ポイントであった。

〔数学〕

正答率では特に「関数」の定着が低かった。「数学の勉強は好きですか」という質問において肯定的に回答している生徒は、全国比-10.2ポイント、大阪市比-8.3ポイントであったが、「最後まで解答を書こうと努力しましたか」という質問において肯定的に回答している生徒は、全国比+13.4ポイント、大阪市比+14.5ポイントであった。

質問紙調査より

「授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたか」の質問で肯定的な回答をした生徒が全国比+13.7ポイント、大阪市比+30.4ポイントであった。本校の学びのスタイルである協同学習を取り入れた主体的な学習ができていると評価できる。それが無解答率の低さにも表れていると思われる。

「平日のスマホやインターネットの1日当たりの利用時間」の質問で3時間以上と回答した生徒が全国比+17.5ポイント、大阪市比+10.3ポイントであった。

スマホ利用時間と学力の低下との相関関係が一般に言われている中、今後利用時間を減らしていくための啓発運動を家庭や地域とともに取り組んでいきたい。

今後の取組

今年度の調査では、国語・数学とも昨年度より若干の向上が見られたが、全国平均・大阪市平均には届かなかった。今回の結果を学力向上委員会ですらに分析し、より本校生徒の実態に即した具体的方策を打ち出したい。

以前より取り組んでいた協同学習から、本年度よりアクティブラーニングへの融合をテーマにICT機器を活用した授業実践を取り入れ始めた。ICT機器活用の職員研修も行い、徐々にアクティブラーニングを取り入れた授業が増えてきている現状である。

今後はこの取り組みをさらに加速させ、基礎学力の定着を図っていきたい。また本校の課題でもある家庭学習、自学・自習の習慣化のため、朝食や睡眠時間、スマホの利用の仕方など正しい基本的な生活習慣の確立を、学校・保護者・地域が一体となって取り組んでいきたい。

【 全体の概要 】

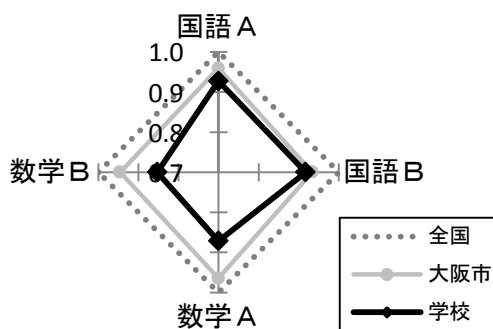
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	70.1	61.0	54.2	37.6
大阪市	72.5	62.1	60.0	41.7
全国	75.6	66.5	62.2	44.1

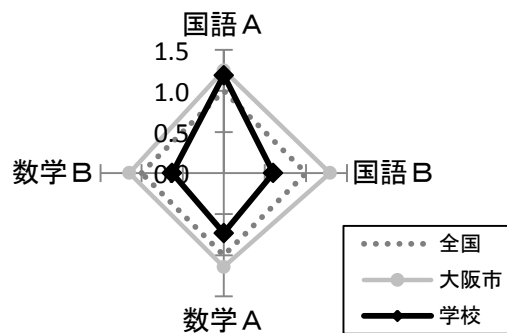
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	2.4	2.7	4.6	9.2
大阪市	2.5	5.7	7.2	16.9
全国	2.0	4.4	6.3	14.7

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



【 国 語 】

A 問題

平均正答率(%)

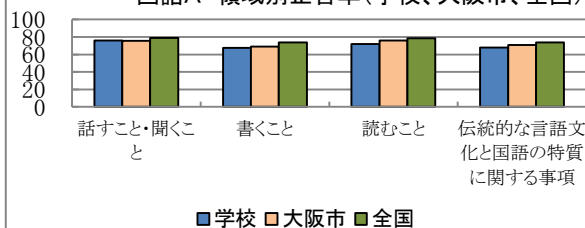
A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	6	76.1	75.7	78.9
	書くこと	4	67.4	69.1	73.7
	読むこと	6	71.8	76.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	68.0	71.0	73.9

B 問題

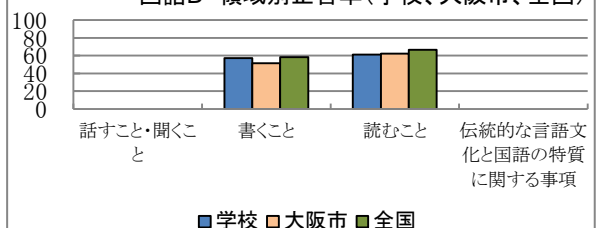
平均正答率(%)

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	—	—	—	—
	書くこと	3	57.3	51.3	58.3
	読むこと	9	61.0	62.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—

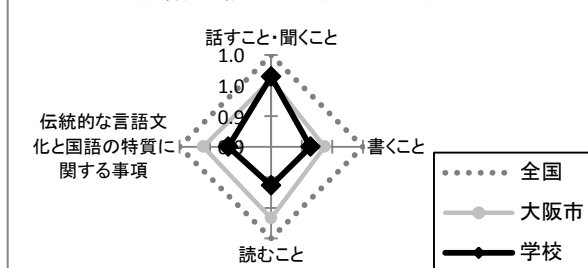
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



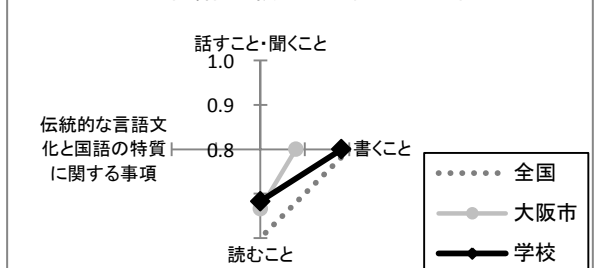
国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



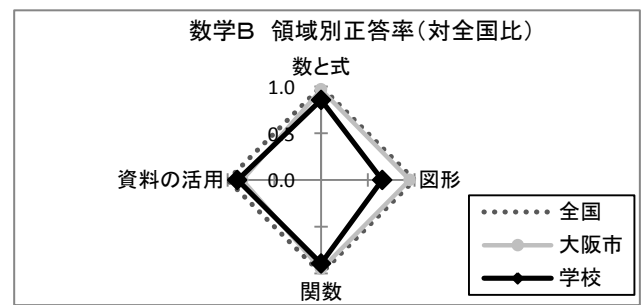
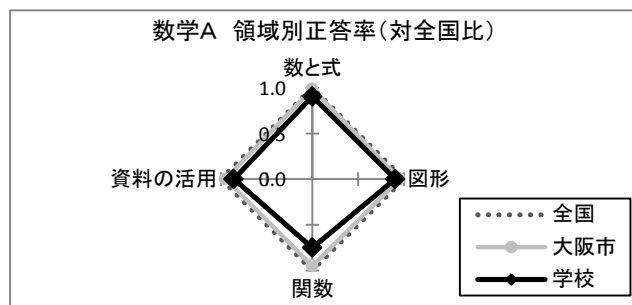
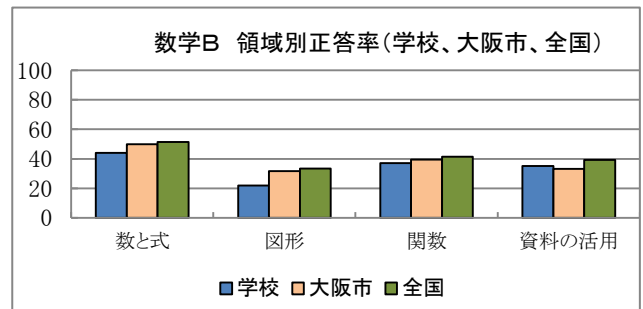
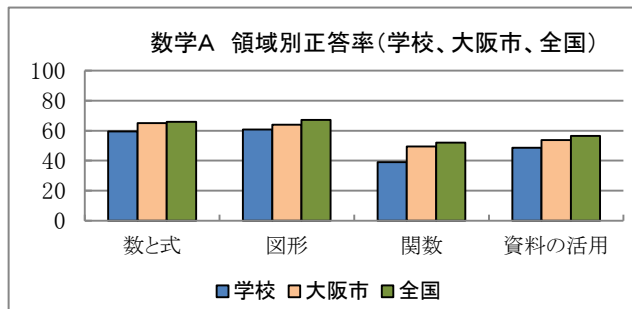
国語B 領域別正答率(対全国比)



【 数 学 】

A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	12	59.6	65.1	65.9
	図形	12	60.8	64.1	67.1
	関数	8	39.0	49.4	52.0
	資料の活用	4	48.6	53.7	56.5

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	6	44.1	49.8	51.5
	図形	2	21.8	31.6	33.3
	関数	5	37.0	39.5	41.4
	資料の活用	2	35.2	33.1	39.3



生徒質問紙より

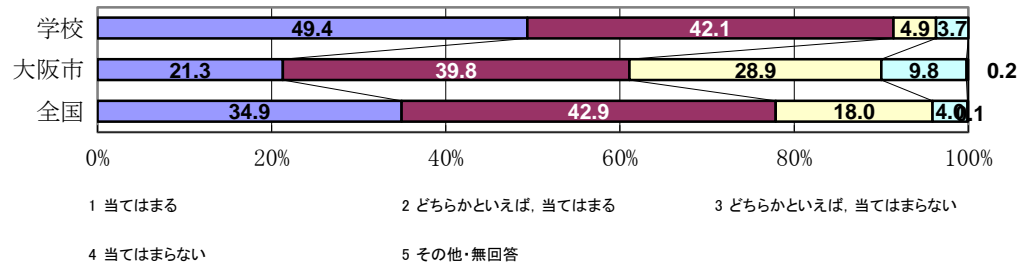
1 2 3 4 5 6 7 8 9

質問番号

質問事項

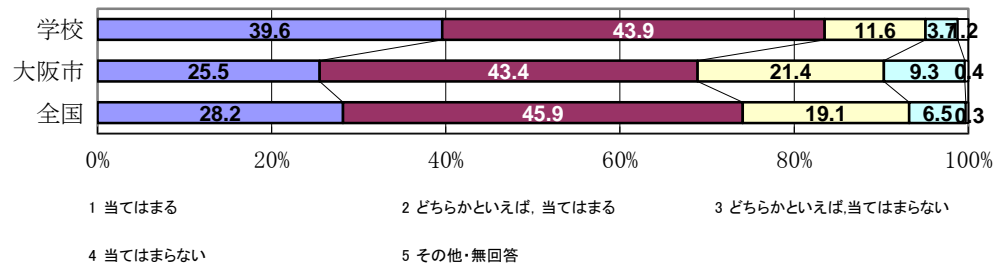
49

1, 2年生のときに受けた授業では, 生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



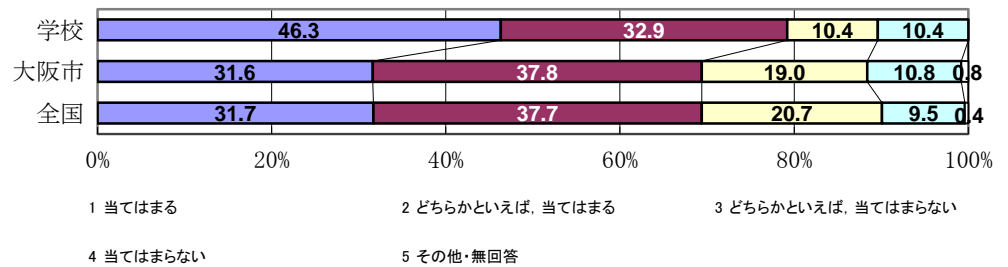
33

先生は, 授業やテストで間違えたところや, 理解していないところについて, 分かるまで教えてくださいますか



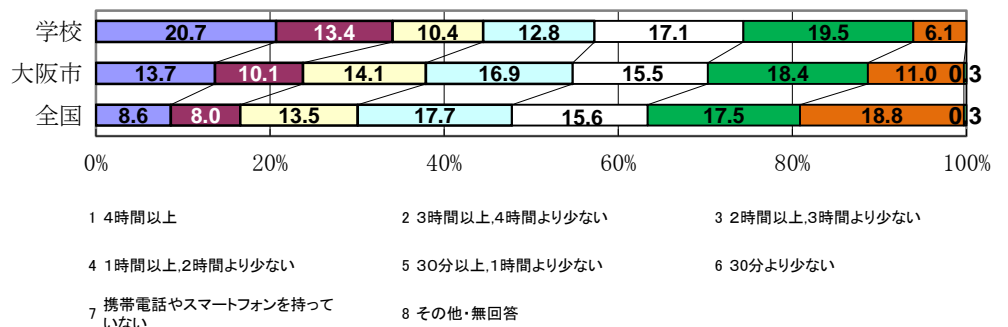
73

数学の授業の内容はよく分かりますか



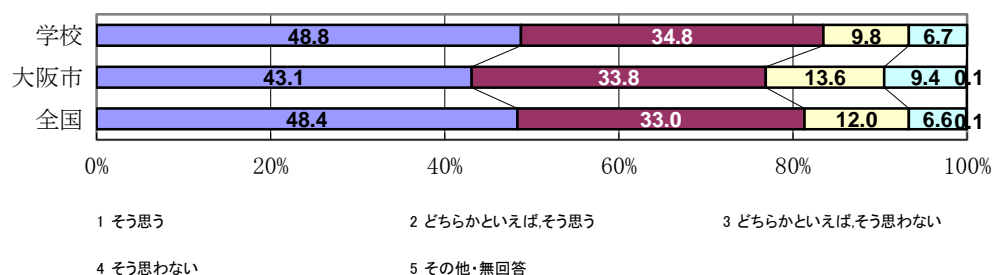
13

普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか (携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



26

学校に行くのは楽しいと思いますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

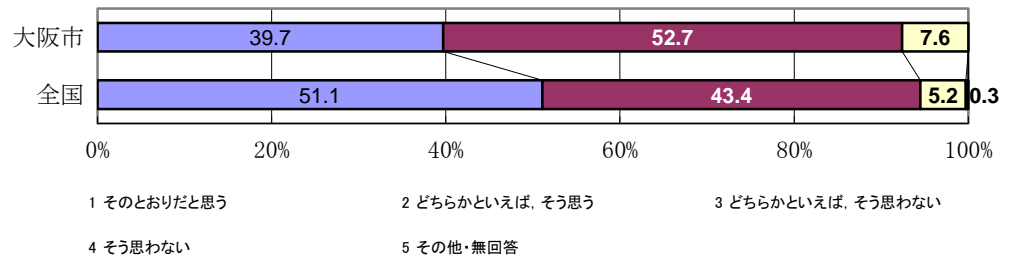
質問番号

質問事項

15

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

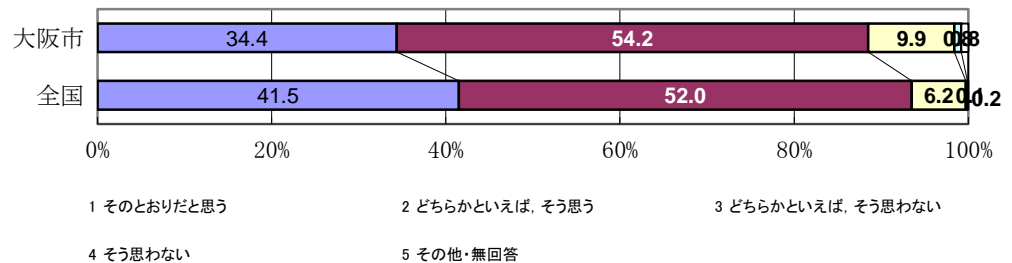
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



16

調査対象学年の生徒は、礼儀正しいと思いますか

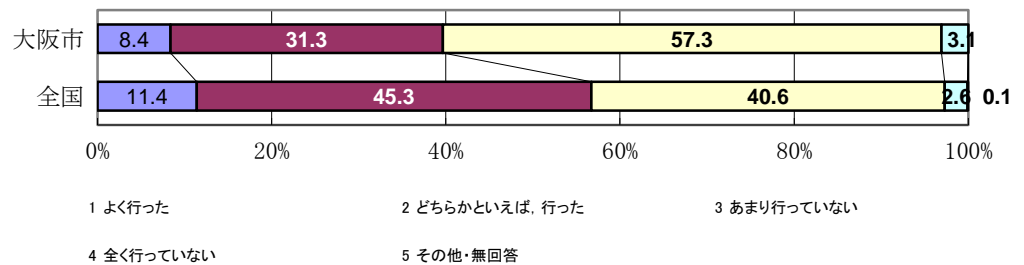
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



56

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術(パソコン(タブレット端末を含む)、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す)を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習(協働学習)や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか

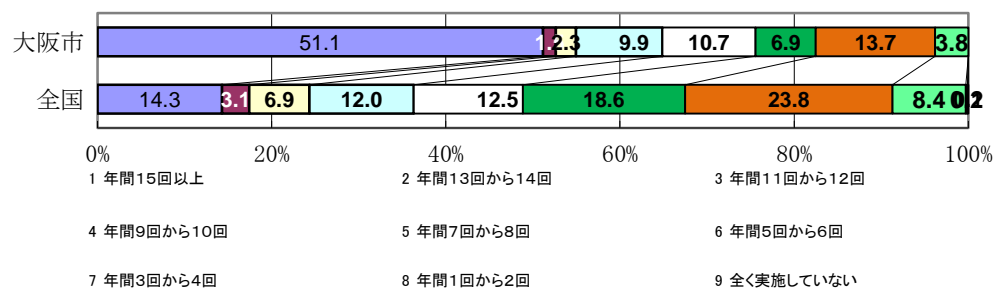
学校 「あまり行っていない」を選択



107

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

学校 「年間3回から4回」を選択



112

学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

